

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有しているが実践につなげる事が難しい。努力している	理念を玄関に掲示し、来訪者の目にふれるようにしている。本人や家族には利用契約時に理念に沿った支援方針について説明している。職員には月1回のミーティングや個人面談の際に理念や支援方針に沿っているかどうか個人的な指導を行い、実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の文化祭への参加地域のボランティアや学生との交流が定期的にある	開設以来町会費を納め、回覧板も回していただき地域の一員として活動している。現在は新型コロナの影響を受け全ての地域行事が中止になり残念な状況が続いているが、収束後には積極的に参加する予定である。そのような中、地区の中学校の生徒が折り紙持参で訪問し利用者とおふれあい、また、市内の高校福祉学科の生徒が2回に分け数名ずつ4～5日の職場体験に来訪するなど、利用者と交流する機会が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ケアマネが認知症の家族の相談窓口になっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では参考になる意見をたくさん頂きサービスの向上につながっている	例年であれば、2ヶ月に1回、家族代表、民生委員、別法人グループホーム代表者、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で開催している。現在、新型コロナ感染の影響を受け書面での開催となり、利用状況やヒヤリハット、行事、身体拘束などに関する報告、写真を添えた利用者の日々の様子等を会議参加メンバーにお届けし、電話などで意見を頂きサービスの向上に繋げている。合わせて、別法人のグループホーム運営推進会議議事録も頂き、情報交換も継続して行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話での対応が主で 非常に快く相談に乗って頂いている(松本市高齢福祉課)	市高齢福祉課とは新型コロナの感染対策等、様々な事柄について連携を取り相談している。介護認定更新調査は調査員が来訪して行われ、家族からお聞きしたことや要望は職員が伝えている。市の介護相談員の来訪は現在コロナ禍のため中止されているが、収束後には再開する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で必ず議題に上るやむを得ない場合以外は身体拘束をしないケアに取り組んでいる 安全面で必要な場合は家族の許可をもらっている	基本的には拘束のないケアに取り組んでいる。現在、ベットより落下危険のある方がおり、家族と相談の上柵を使用することがあるが毎月見直しに向けての話し合いを行っている。玄関は日中開錠されている。外出傾向の強い利用者があるが、職員が見守り、話をする事で対応している。また、転倒危険のある方もおり、家族と相談の上、足元センサーを使用している。月1回のミーティングの席上、拘束のないケアについて話し合い、意識を高め取り組んでいる。	

グループホームりんごの樹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族的で小規模の事業所の中で虐待が見過ごされる事は無い		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については ほとんどが弁護士や司法書士が対応してくれてる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がきちんと説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	松本市介護保険相談員の受け入れにより運営に反映されてると思う	全利用者が意思表示の出来る状況であり職員が優しく寄り添い問い掛け、要望を受け止めている。家族の面会については、昨年までは事前に連絡を頂きワクチン2回接種済み条件に玄関での面会を再開していたが、年明けよりの感染拡大の状況を受け現在は窓越しでの面会となっている。そうした中、利用者のホームでの生活の様子は毎月発行されるホーム便り「りんご便り」に一人ひとりの写真を添えお届けし、合わせてスマートフォンを用いた「動画」でもお知らせし、家族にも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で話し合いが行われる	月1回、ユニット毎に利用者一人ひとりの状況について時間をかけじっくりと話し合いサービスの向上に繋がっている。年1回、代表者、ホーム長による個人面談が行われ、職員一人ひとりの意見を吸い上げるようにしモラールアップにも繋がっている。また、県が行う研修会には積極的に参加し知識・技術の向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬に頼る為 給与水準は低い やりがいや向上心を持つためにも介護報酬のアップを望む		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努力はしている		

グループホームりんごの樹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の行き来で情報交換をしている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との対話を大切にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの暮らしを写真やお便りでお知らせし行事等の参加を呼びかけている(コロナ前)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご様子にもよるが出来る限りのことはしている	コロナ禍の状況で、友人、知人の面会は自粛している。携帯電話をお持ちの方が数名おり家族と連絡を取り合っている。定期的には手紙を出される方がおり、職員が付き添いポストまで投函に出掛けている。また、利用者の希望に合わせて、馴染みの店に買い物に出掛け職員が付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が関りが持てるようにスタッフが間に入り関係を作るようにしている		

グループホームりんごの樹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的な働きかけはしない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに取り入れている	全利用者が意思表示の出来る状況で、一人ひとりの状況に合わせて洋服選びや好きな飲み物等を提案し、自分の意思で選んでいただくようにしている。お茶や食事の時間等、1対1で話をする時間を取るよう心掛け、気づいた事柄については介護記録に纏め申し送り時に確認し合い、利用者一人ひとりの意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに取り入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントに取り入れている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族 本人からの聞き取りの他スタッフ数名の意見を取り入れてケアマネがまとめて介護計画の作成をしている	職員3名が1チームとなり3名の利用者を担当し、居室管理、日々の状況を把握したサービス計画書の作成、モニタリング等を行い、ケアマネージャーがケアプランの作成を行っている。入居時は家族や本人からの聞き取りを基に1ヶ月間暫定で様子を見て本プラン作成に繋げている。3ヶ月毎に見直しを行っており、変化がなければ長期目標6ヶ月での見直しとなり、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。家族の希望は入居時や変化が見られる都度伺い、プランの中に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の他 送りノートの活用やミーティングでの話し合いが行われる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

グループホームりんごの樹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の文化祭への参加 地域のボランティアや学生との交流が定期的にある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	入居時に医療機関についての希望を聞きホームとしての取り組みについて説明している。現在、入所前からのかかりつけ医利用の方が若干名おり、家族が受診にお連れしている。他の多くの利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、契約の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携が図られ24時間対応である。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応し、ホーム長が歯科衛生士でもあることから利用者の口の健康についてもきめ細かな配慮をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携が出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時 本人と家族の意向は書面で提出してもらっているがその都度確認を取る スタッフは本人らしい最期を迎えられるよう相談しながら支援している	重度化や終末期に対する指針があり、利用者・家族には利用契約時に説明して同意書にサインを頂いている。食事を摂ることや入浴が難しくなるなど、終末期に到った時には家族、医師、訪問看護師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き医療行為を必要としない場合に看取り支援に取り組んでいる。看取り後は振り返りの時を持ち、経験を次に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていない 訪問看護ステーションの指示を受ける		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を実施 隣りの施設との協力関係を確認している	コロナ禍の中、昨年末に消防署員の参加を頂き火災想定で防災訓練を実施した。利用者全員が玄関先まで移動しての避難訓練、防災機器の点検、消火器の使い方指導を頂き全職員で確認した。合わせて消防署へ電話をしての通報訓練も行った。また、隣のスパー銭湯や近隣住民とも緊急時の協力関係が構築されている。備蓄については通常の食料品を中心に準備されているが、「カップ麺」「レトルト食品」などを主に充実を図る予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の振り返りを大切にしている	言葉遣いには気を配り、利用者一人ひとりの様子に合わせ、子供となり、孫となり、敬語や方言等も交えながらアットホームな雰囲気を大切に温かな日々を過ごすよう心掛けている。入室時には「ノック」と「声掛け」を忘れないよう徹底し、声掛けは利用者の希望に合わせ苗字か名前に「さん」付けで行っている。時には利用者への親しみを込め「ちゃん」付けでお呼びすることもあるが、あくまでも年長者への敬意を忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆で頑張っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課も大切にしつつ会話の中で希望を聞き出して支援につなげている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時 入浴後など鏡に向かう時間をつくっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付け 食器お盆拭き等は毎日の日課になっている その他にも 月に一回は食に関したレクレーションを計画するようにしている	基本的に全利用者が自力で食事が出来る状況で、食べることを楽しみにされている。献立は2ヶ月間の基本献立より1週間分引き出しアレンジして提供し、1日の料理の中で卵、肉、魚を調理の中に取り入れるよう心掛けている。利用者のお手伝いについては力量に合わせ、野菜の下処理から後片付けまで楽しみながら参加していただいている。コロナ禍が続く外食に出掛ける事が難しい状況が続いているが、月1回の行事の際には「豪華弁当」や「お寿司」等をテイクアウトして楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取しやすい形状で提供する事で残量を減らせるように工夫している 食事やお茶の時間外にも好きな時間に飲んでもらえるように準備している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声がけや介助など 個別に対応している 義歯の方は 每晚洗浄剤にて清潔を保っている		

グループホームりんごの樹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て声がけや誘導を行いリハビリパンツやパット使用の方はいるものの全員の人がトイレでの排泄が出来る	自立の方が三分の一、一部介助の方が三分の二という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、個々の様子を見てトイレにお連れしている。排便については排泄記録表を参考に2~3日排便がない場合は排便コントロールを行い、食事、おやつの際にはお茶を中心に水分摂取を勧め、入浴後にはコーヒーをお出しし排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行や運動の促し 水分補給に気を付けている 便秘薬は調整しながら使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務時間の都合上 いつでもという訳にはいかないが午前や午後 入浴剤を選んでもらう等して工夫している	自立の方は若干名で、一部介助の方が大半となっている。基本的には週2回入浴を行い、希望により3回入浴される方もいる。入浴拒否の方もいるが無理強いせず日を変えたりして対応している。入浴剤を何種類か準備しており、利用者に希望の物を選んでいただくようにしている。合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」「みかん湯」等を行い、季節感も味わえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は寝具や温度調節 明るさに気を付けている 昼間はホールでも休めるように車イスからソファに移乗するなどして休める環境づくりをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護ステーションの指導もあり頑張っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを生かし 日課につなげている 行事を取り入れながら気分転換等をはかっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等 本人の希望に沿って支援している	施設内では歩ける方も多くいるが、外出時は自力歩行の方が数名で車いす使用の方が三分の二強という状況である。新型コロナ感染の影響を受け、年4回の外食レクリエーション等が行えない状況が続く残念であるが、収束後には家族の協力も頂き再開する予定である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、隣のスーパー銭湯の駐車場に季節の花見に出掛けたり、ホームのベランダに出てお茶を飲み外気浴を楽しんだりしている。	

グループホームりんごの樹

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様はお金の管理が出来ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は季節ものの飾りを皆で作って飾る温度調節は換気をよくして季節に合わせて過度になりすぎないように注意している	広々とした共用部分には大きなソファと大型テレビが設置された寛ぎのスペースと利用者全員が一堂に会する食事テーブルが設けられた食堂があり、一つの家族として温かみのある時間を過ごしている。壁には季節の飾り付けや「叙勲式」に用いた賞状等が飾られ活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は自席だけでなくソファがあり好みに座ってもらえるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時 使い慣れた家具や小物 等を持ち込んでもらっている	整頓が行き届いた居室は清潔感が漂っている。各居室への持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れた家具、テレビ等が持ち込まれており、壁には家族の写真や自分の作品等が飾られ、思い思いの生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前は名前を 浴室やトイレ前にも分かるように表示している		